

柏木教会月報

1月号

東京都新宿区北新宿3-1-18

☎03-3368-2156

牧師 大浦 勝

御国を来たらせたまえ

ルカによる福音書一一章二二～三四節

牧師 大浦 勝

「ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのは加えて与えられる。小さな群れよ、恐るな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる」(三一～三三節)。

「御国を来たらせたまえ」。これを今年の柏木教会の標語としたい。これは言うまでもなく、キリストが教えてくださった主の祈りの第二の願いである。キリストが「御国を来たらせたまえ」と祈るように教えてくださつたのであるから、御国は来るのである。わたしたちは御国を待ち望む希望の中を生きる。「御国」とは「あなたの国」、すなわち、「神の国」である。神が愛と正義をもって、平和の内にすべてを支配されることである。わたしたちは悲惨な戦争が相次ぐ世界に生きており、多くの人々が世界の平和を願いながら新年を迎えた。そのような状況の中で、改めて「御国を来たらせたまえ」と祈るように教えられていることを覚え、そのように祈りつづこの一年を過ごすことは、まことに意義深いことであり、喜ばしいことである。

用いられている「国」という言葉の元來の意味は「支配する」である。従つて、「御国を来たらせたまえ」とは、「神が王としてすべてを支配してくださるよう」、こ

そのような時が来るよう」ことである。確かに神はすでに王であり、すべてを支配しておられる。「國々にふれて言え、主こそ王と」(詩九六・一〇)。しかし、この世界には、神に逆らう力も働いている。サタンは國々の一切の権力と繁栄とは、「わたしに任されていて、これと思う人に与えることができる」とさえ言うことができた(ルカ四・六)。

キリストはこのサタンの支配、罪と死の支配を打ち破り、神の支配を樹立するためにおいでになった。「時は満ち、神の国は近づいた」(マルコ一・一五)。キリストにおいて神の国が到来した。「わたしは神の指で惡魔を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ」(ルカ一・二〇)。キリストはわたしたちを招いてサタンと罪と死の支配の下から解放し、神の國の民としてくださった。わたしたちは悔い改めて洗礼を受けることによって、神の國に加えられ、その一員とされた。「わたしたちの国籍は天にある」(ヨハネ三・二〇、口語訳)。

「御国を来たらせたまえ」と祈りつつ、わたしたちは来るべき神の國を待ち望む。神に逆らう力は今なお働いている。しかし、キリストはすでにその力に勝利しておられ、やがて神の國を完成される。神の國は現在隠されているが、世界は確実に神の國に向かって進んでいる。わたしたちは完成される神の國を待ち望みつつ、神が今もおこなつておられる神の國のわざに仕えていく。そうすることによって、教会は来るべき神の國を証しし、これを指し示すしとなる。